

IFS Zero

エージェント型排出量管理 オペレーティングシステム



コンプライアンス対応の期限が迫る中、エネルギーコストは上昇を続けています。一方で、多くのアセット集約型企業では、排出量データを実際の業務活動の発生源まで正確に追跡できていないという課題を抱えています。

排出量データは複数のシステムから手作業で収集され、Excelなどの表計算ツールで集計・照合された後、報告ツールへ転記されるケースが少なくありません。その結果、報告業務に多くの時間と労力を要するだけでなく、データの検証や監査対応にも負担が生じています。

IFS Zeroは、こうした分断されたプロセスを単一のプラットフォームに統合。業務データを自動で収集し、排出量を自動算出するとともに、サステナビリティ情報開示や各種報告業務の効率化と信頼性向上を支援します。

多くの企業が直面する排出量管理の課題



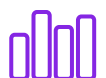
データがサイロ化している

運用システムからデータを抽出し、別のレポートイングプラットフォームへ移行する運用では、データの重複管理が発生し、信頼性の低下につながります。



統合型ソリューションは時間がかかる

従来のソリューションでは、価値を創出するまでに多くの設定作業やシステム連携が必要となり、導入期間が長期化しがちです。



多くのツールは「報告」に留まり、「最適化」まで支援できない

多くのプラットフォームはコンプライアンス対応や開示レポート作成を支援しますが、排出量削減や業務効率向上につながる運用レベルの分析・改善までは十分にカバーできていません。

IFS Zeroが製造業のサステナビリティ管理を支援

IFS Zeroは、排出量管理と製造現場の業務データを単一のプラットフォームで統合し、排出量報告を日々のオペレーションと直接結び付けます。

設備資産、エネルギー使用量、各種業務システムのデータを連携することで、製造現場で発生した活動から企業全体の開示レポートまで、一貫したトレーサビリティを実現。これにより、分断された報告プロセスやExcelを中心とした手作業への依存を削減します。

また、排出量データの収集、検証、集約を自動化し、コンプライアンス対応や情報開示業務の効率化を支援します。

排出量データと設備・運用データを統合管理することで、レポートの精度向上、運用コストやコンプライアンス対応コストの削減を実現。さらに、経営層や現場責任者が必要な情報をタイムリーに把握できる環境を提供し、効率化やサステナビリティ施策の推進を支援します。

IFS Zeroは、年次・四半期ごとの報告対応にとどまらず、継続的な可視化と改善を可能にし、より持続可能でレジリエントな製造オペレーションの実現を支援します。

